

イワキンバイ	<i>Potentilla ancistrifolia</i> Bunge var. <i>dickinsii</i> (Franch. et Sav.) Koidz.	絶滅危惧 I 類
		バラ科
選定理由	県内では産地がごく限られる非常に稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(高橋弘)
形態の特徴	多年草。地下茎は太短く、木質。茎は長さ20cm以下、直立する。葉は3小葉、時に1-2対の付属小葉片がある。小葉はやや革質、倒卵形-菱状卵形、歯状縁-鋸歯縁、両面に柔毛散生、上面緑色、下面帯白色。花は6-8月、5数性、集散花序に2-12花を着け、径約1cm。萼片は狭卵形-披針形、副萼片は披針形。花弁は黄色、倒卵形。雄蕊20。雌蕊多数。花托に白柔毛密生。	
生態的特徴	山地の露岩地などの岩上に生える。	
分布状況	北海道、本州、四国、九州の山地の岩上に稀。朝鮮、中国。県内では飛騨山地と御岳の中腹に非常に稀。	
減少要因	樹林管理の停滞に起因する低木林エリアの拡大のため生じる日照不足からの生育不良。	
保全対策	樹林管理の促進による自然露岩地の維持。	
特記事項	小葉が3枚の他の <i>Potentilla</i> と間違われる。イワキンバイは小葉の鋸歯が少なく鋭く、裏面が帯白色、花床に白柔毛を密生する。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 33. <i>Potentilla</i> L. N. Naruhashi	

文責: 高野裕行